

平成23年度予算 未来まちづくり推進枠予算要求一覧

(単位：千円)

消 防 局 予 算 要 求 の 内 容			
事業名	事業概要	要求額	所管課 電話番号
消防防災通信ネットワークの構築（消防救急無線デジタル化及び消防指令センター更新整備実施設計）	平成28年5月31日が使用期限と定められている150MHz帯消防救急無線について、計画的にデジタル化整備を実施するため必要な実施設計を行うもの。 一方、平成10年度に運用を開始した消防指令センターは、運用から12年が経過し、システムの更新時期を迎えている。逼迫する本市財政状況の下、上記デジタル化整備と併せて整備を行うことにより、より効率的な整備が可能となることから、必要な実施設計を行うもの。	60,000	総務部 庶務課 212-6635
市民防災センター体験施設改修	平成11年度に整備した京都市防災センター3階の体験施設について、経年の利用により老朽化が著しいことから、新たに水災害の啓発も兼ねた施設としてリニューアルし、市民への防災の更なる普及啓発を図るもの。	80,000	総務部 庶務課 212-6635
救急ワークステーション整備（基本設計）	京都市立病院敷地内に救急ワークステーションを設置し、市立病院と密接な連携のもと、救急救命士の行う応急処置等の質を確保する、いわゆるメディカルコントロール体制の更なる向上を図る。具体的には、国の基準で定められている救急救命士の再教育に係る病院実習の一部を市立病院で画一的に実施し、救急救命士の処置範囲の拡大や新型インフルエンザなどの新たな災害への対応など、時勢に応じた研修体制を充実させるもの。 なお、平成23年度は、施設建設に先立ち基本設計を実施する。	4,000	総務部 庶務課 212-6635
訓練用パッケージ型消火設備の製作（職員提案予算）	現在、事業所に普及している『パッケージ型消火設備』は、消火薬剤及び放出に使用するガスボンベ等の交換が高価であることなどの理由から、実際の放射を伴う訓練が実施しにくい現状がある。 そこで、『パッケージ型消火設備』と同様の操作方法を体験でき、安価で繰り返し使用できる訓練用パッケージ型消火設備を製作することにより、当該設備が設置されている事業所の訓練指導に活用し、火災発生時の有効な初期消火活動の確保を図る。	1,500	総務部 庶務課 212-6635
ポータブル電気火災実験器の製作（職員提案予算）	火災原因の上位に挙げられる『電気火災』については、より効果的な市民への防火広報を行うため、職員が地域の住民に対して、直接実演指導をしているところである。しかしながら、定まった指導ツールがなく、廃材の利用などにより代替している現状であることから、電気火災の主な要因である「短絡」「トラッキング」「グラファイト化」「過電流」などの展示実験が、より安全、かつ、効率的に、そして、市民にわかりやすく実施できるようなツールを製作する。	1,000	総務部 庶務課 212-6635
消 防 局 合 計		146,500	